

国際・交流委員会 基本方針（案）

国際・交流室 国際・交流委員会
委員長 古賀 智博

1 昨今、労働人口の減少や教育水準の向上を背景とした、政府方針による外国人の受け入れ
2 促進などにより、地域に住まわれる在留外国人の増加が予測されている中、多文化共生を目
3 指した地域づくりに取り組む機運が高まっています。グローバル社会における多様性を受
4 け入れ、地域に住み暮らす人びとにとって、明るい豊かな社会となるよう我々が地域社会と
5 密接な交流を深め知識を醸成していく必要があります。

6 まずは、諸先輩が 1985 年から継続してきた姉妹 J C である社團法人台南市新營國
7 際青年商會との交流が本年度で 38 年目を迎え、堅固なる友情をさらに深めるために、相互
8 交流に関わる課題解決に取り組み、より一層楽しみを持って参加できる相互交流にします。
9 そして、文化、歴史、価値観の違いを、広く深く理解し合える国際交流するために、個々
10 においても友情が芽生える訪問事業を企画し、佐賀青年会議所メンバーに積極的な参画を
11 促すとともに、国際意識を高める機会を創出します。さらに、多様性を受け入れるユニバー
12 サルな地域社会を目指していくために、身近に住み暮らす在留外国人の方とコミュニケー
13 ションを交わす例会などを行い、多文化共生への理解を深め活気溢れる地域づくりにつな
14 げます。また、国内開催である A S P A C 堆高石大会での近隣諸国との交流をより多くのメ
15 ルバーで共有するために、日本青年会議所等から発信される情報を集約した周知活動を行
16 い、身近で体感できる国際経験を積み、友情の輪を広げ青年会議所活動の一助とします。

17 我々佐賀青年会議所はこれまで以上に国際社会・地域社会への貢献と交流を通じた活動
18 を行い、一人ひとりの違いを柔軟に受け入れ、地域の方々と共に皆が手を取り合い、多様性を
19 活かした佐賀を創造していき、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、「銀鱗躍動」のよう
20 に地域で勢いよく輝き続ける団体を目指します。

21

22

[事業計画]

- 24 1. 新營 J C 訪問交流の企画・運営（11月）
- 25 2. シニア総会の参加者支援（1月）
- 26 3. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 27 4. 例会の企画・運営（3月・11月）
- 28 5. A S P A C 参加者への支援（6月）
- 29 6. 河川清掃（10月）
- 30 7. J C I 世界会議参加者への支援（11月）
- 31 8. 会員拡大 拡大目標 委員会 8 名（全体 40 名）